

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 29 年 9 月検出分;検体採取平成 29 年 7 月～9 月)

平成 29 年 10 月 10 日

鳥取県衛生環境研究所

1 インフルエンザ・インフルエンザ様疾患について

臨床診断名が、インフルエンザの検体 2 件 (検体採取 8 月下旬・9 月上旬)、「インフルエンザ・A 群溶血性レンサ球菌感染症」の検体 2 件 (検体採取 9 月上旬)について検査を実施したところ、すべてからインフルエンザ A 型が検出されました。この 4 件については、すべて A2009 型で、タミフル耐性遺伝子検査を実施したところ、1 件は感受性、3 件は判定不能 (ウイルス量不足のため) でした。(別途、8 月下旬に西部地区のインフルエンザ定点以外で収集した「臨床診断名がインフルエンザの検体」5 件も検査を実施しました。その結果、4 件から A 型が検出され、残り 1 件からはインフルエンザは検出されませんでした。この 4 件についてもすべて A2009 型で、タミフル耐性遺伝子検査を実施したところ、すべて感受性でした。)「島根県感染症情報 月報 2017 年 8 月」によると、島根県でも 7 月から 8 月にかけて A2009 型が検出されています。

なお、インフルエンザ様疾患の検体 1 件 (検体採取 8 月上旬)については、インフルエンザは検出されませんでした。

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 7 件 (検体採取 2017 年 8 月上旬、中旬、下旬)について検査を行いました。ノロウイルスについては、1 件 (番号 170202) からノロウイルス G II が検出されました。ノロウイルスが検出されなかった検体 6 件について、サポウイルスの検査を実施したところ、1 件 (番号 170214) からサポウイルスが検出されました。さらに、ノロウイルス及びサポウイルスがいずれも検出されなかった 5 件について、A 群ロタウイルス、アデノウイルス 40/41 型、アイチウイルス及びアストロウイルスの検査を実施したところ、1 件 (番号 170210) からアデノウイルス 40/41 型が検出されましたが、その他のウイルスは検出されませんでした。

3 RS ウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症の検体 3 件 (検体採取 8 月中旬・番号 170217、9 月上旬・番号 170205、170221) について検査を実施したところ、すべてから RSA が検出されました。

4 ヘルパンギーナ

臨床診断名がヘルパンギーナの検体1件（検体採取8月中旬・番号170216）について検査を実施したところ、エコーウイルス5型が検出されました。

全国のヘルパンギーナ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（9月29日作成）によると、2013年、2015年及び本年で、コクサッキーウイルスA6が最も多く報告されています。

*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



図1 ヘルパンギーナ患者から分離・検出されたウイルス（2013年～2017年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年は9月29日までに報告された数）

5 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体3件（検体採取8月下旬・9月上旬）について検査を行ったところ、アデノウイルスが2件検出され、残り1件からは検出されませんでした。検出された2件については、1件（番号170203）が54型で、残り1件（番号170203）は3型でした。

全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究

所の病原微生物検出情報（9月29日作成）によると、2015年から本年では、54型が最も多く、3型はそれに次ぐ報告数となっています。

* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

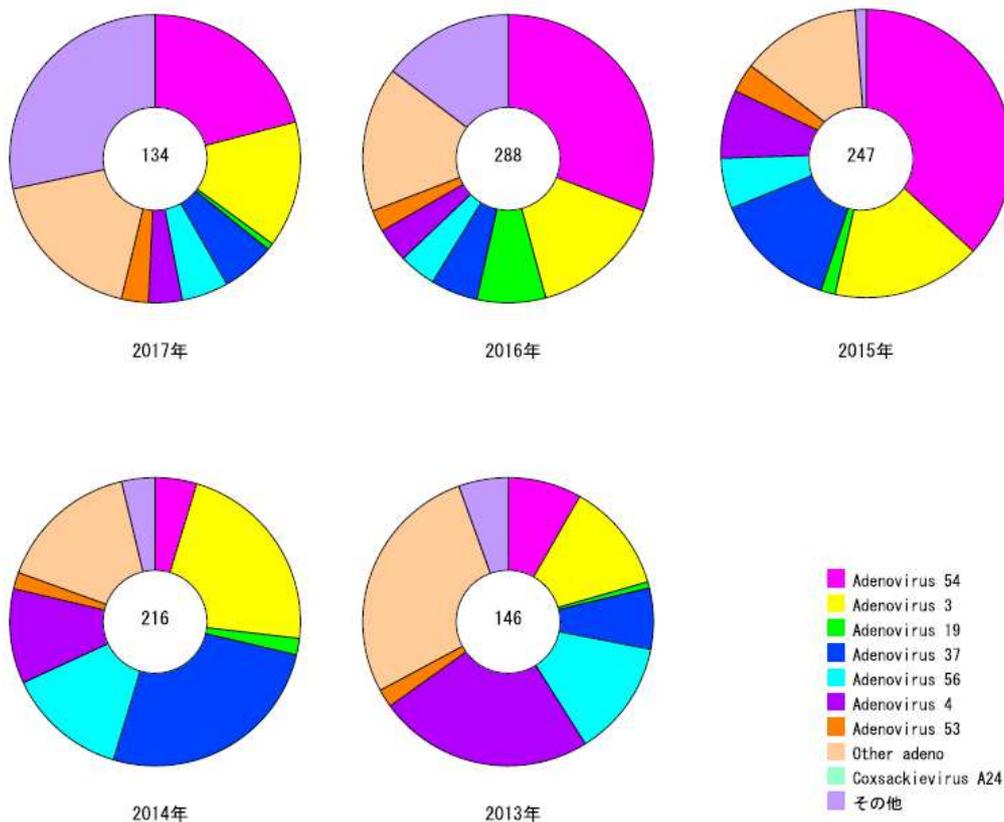


図2 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2013年～2017年）

* 円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年は9月29日までに報告された数）

6 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の検体2件（検体採取8月上旬・9月上旬）について検査を行ったところ、1件からアデノウイルスが検出され、残り1件からはアデノウイルスは検出されませんでした。検出された1件（番号170220）については、1型でした。

全国の咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（9月29日作成）によると、2013年から本年では、1型は3位から4位の報告数となっています。

*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

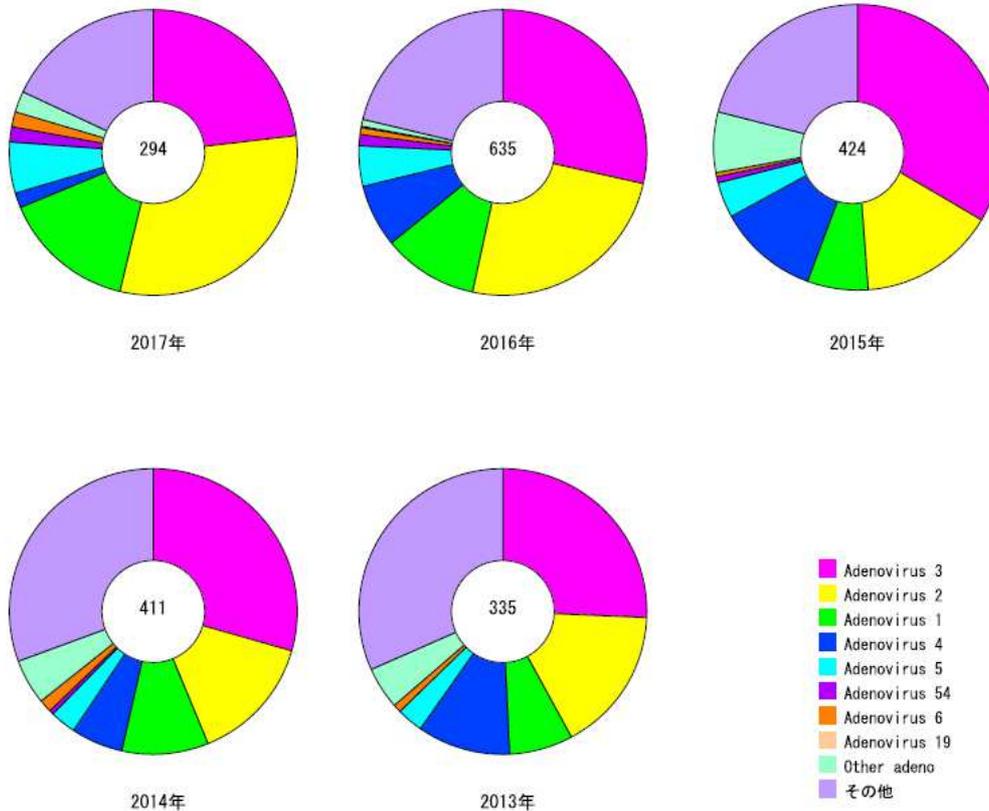


図3 咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルス（2013年～2017年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数(本年は9月29日までに報告された数)

7 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎である検体3件（検体採取7月下旬、8月上旬、中旬）と「無菌性髄膜炎・突発性発疹」である検体1件（検体採取日不明）について、ムンプスウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルスの検査を行いました。その結果、1件（番号170201）からアデノウイルス4型のみが検出されました。他の3件についてはこれらのウイルスは検出されませんでした。

8 A群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名が「インフルエンザ・A群溶血性レンサ球菌感染症」の検体2件（検体採取9月上旬・番号170206、170208）について検査を行いました。A群溶血性レンサ球菌は分離されませんでした。

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 29 年 10 月検出分;検体採取平成 29 年 9 月～10 月)

平成 29 年 11 月 14 日

鳥取県衛生環境研究所

1 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎等の検体 5 件 (検体採取 9 月中旬・9 月下旬) について検査を行ったところ、アデノウイルスが 4 件検出され、残り 1 件からは検出されませんでした。

(詳細は表 1 のとおり)

表 1 検査状況 (流行性角結膜炎等)

検体番号	検体採取時期	臨床診断名	アデノウイルス(型別)
170225	9 月中旬	流行性角結膜炎(疑)	未検出
170226	9 月下旬	流行性角結膜炎 (細菌性髄膜炎合併(疑))	検出(54 型)
170227	9 月下旬	流行性角結膜炎	検出(54 型)
170228	9 月下旬	流行性角結膜炎	検出(54 型)
170229	9 月中旬	流行性角結膜炎	検出(D 種(37 型か 53 型か判定不能))
検出計			4 件(54 型:3 件, D 種:1 件)

全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報 (11 月 2 日作成) によると、2015 年から本年では、54 型が最も多い報告数となっています。

* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離・検出報告を図に示した

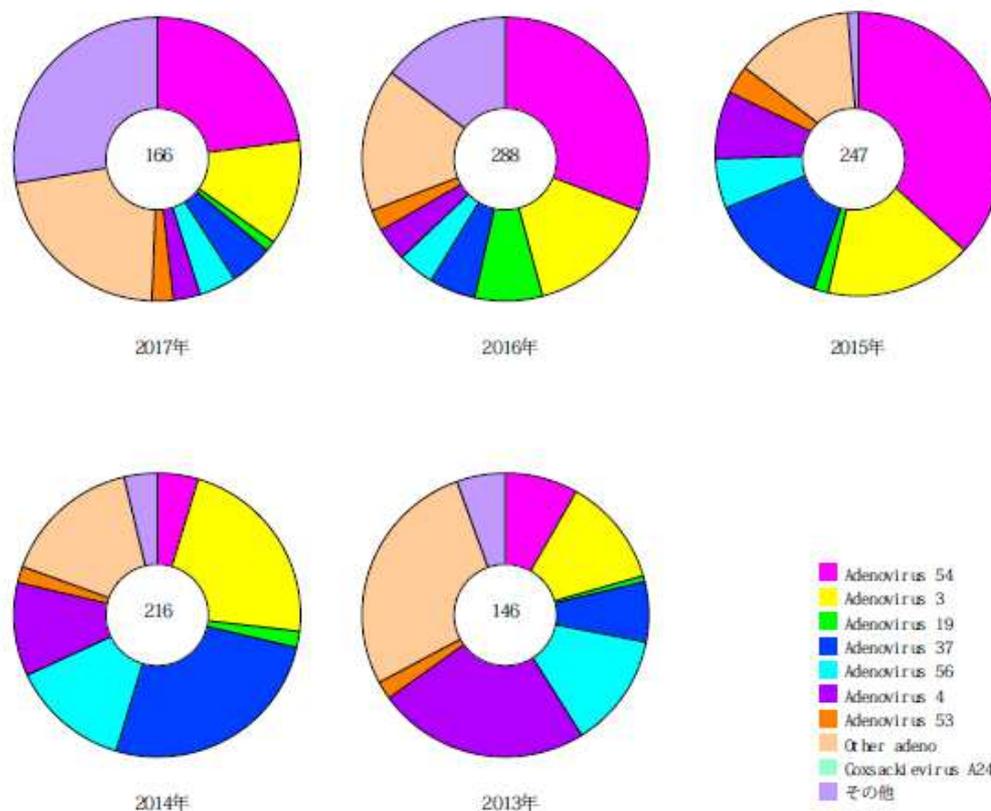


図1 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2013年～2017年）

* 円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年11月2日までに報告された数）

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎等の検体 7 件（検体採取 2017 年 9 月上旬、中旬、10 月上旬）について検査を行いました。検出されたウイルスはノロウイルス（GⅡ）6 件でした。

（詳細は表 2 のとおり）

表 2 検査状況（感染性胃腸炎等）

検体番号	検体採取時期	臨床診断名	ノロ	サポ	A 群 ロタ	アデノ 40/41	アイチ	アス トロ
170230	9 月 中旬	感染性胃腸炎	検出 (GⅡ)					
170231	9 月 中旬	感染性胃腸炎	検出 (GⅡ)					
170232	9 月 月上旬	感染性胃腸炎	検出 (GⅡ)					
170235	9 月 月中旬	感染性胃腸炎	検出 (GⅡ)					
170236	10 月 月上旬	感染性胃腸炎	検出 (GⅡ)					
170240	9 月 月中旬	感染性胃腸炎 インフルエンザ様疾患	検出 (GⅡ)					
170241	9 月 月中旬	感染性胃腸炎	未検出	未検出	未検出	未検出	未検出	未検出
検出計			6 (GⅡ:6)	0	0	0	0	0

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（11 月 2 日作成）によると、今シーズンと過去 4 シーズンの週別の小型球形ウイルスの検出報告数は図 2 のとおりです。

* 各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した

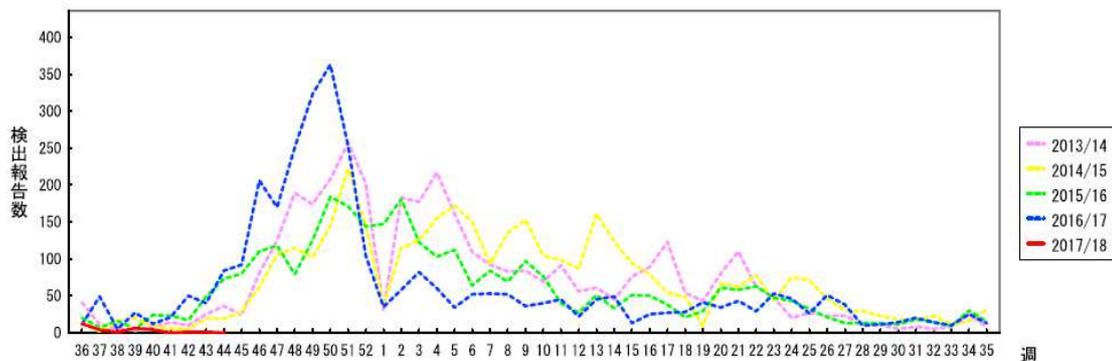


図 2 週別の小型球形ウイルスの検出報告数

また、今シーズン及び過去2シーズンの小型球形ウイルスの内訳は図3のとおりで、今後ノロウイルス GII の検出が増加すると考えられます。

各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した

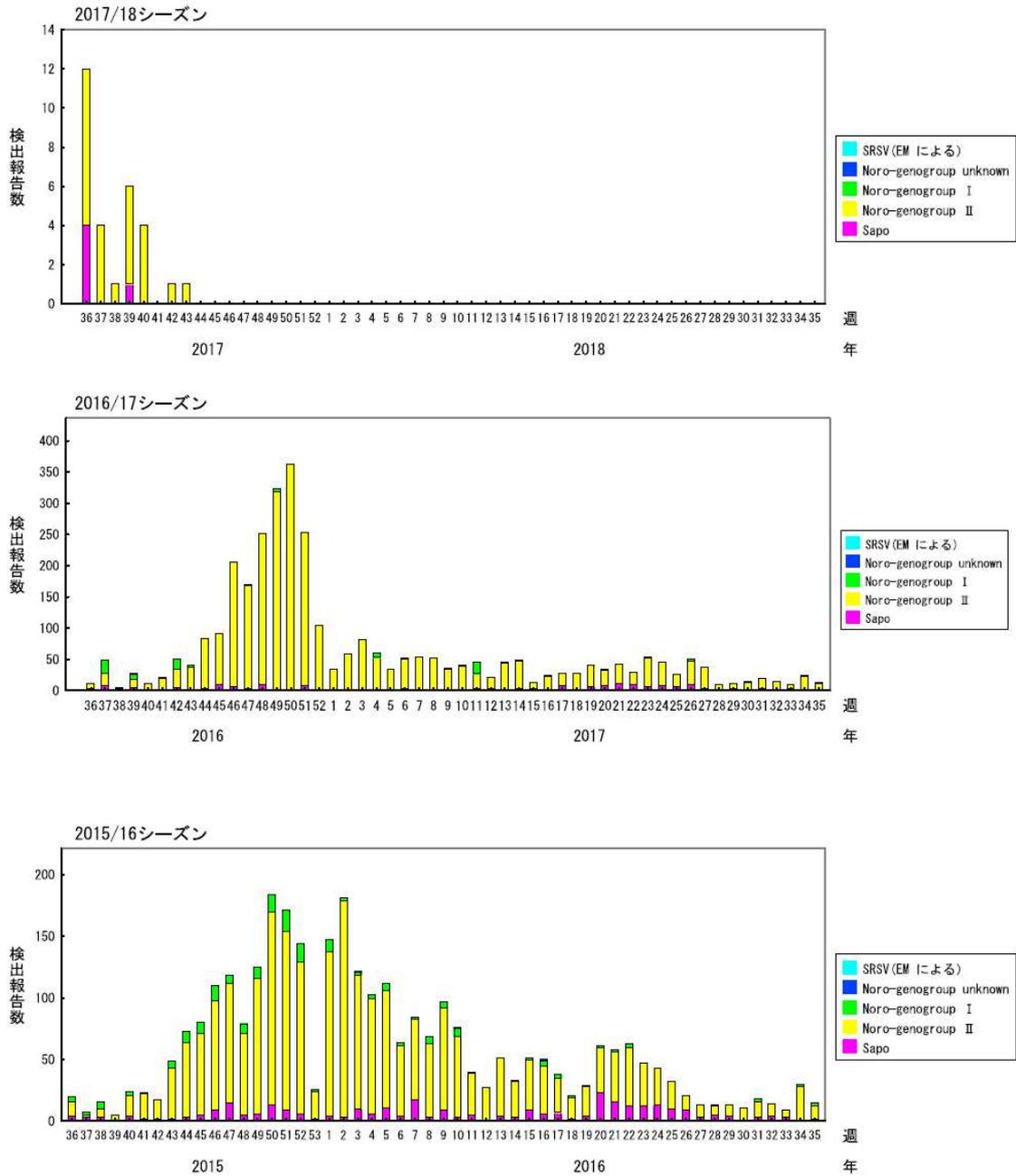


図3 検出された小型球形ウイルスの内訳

3 RS ウイルス感染症

臨床診断名がRS ウイルス感染症の検体3件（検体採取9月下旬・番号170233、9月中旬・番号170239、検体採取10月上旬・番号170242）について検査を実施したところ、すべて、RS ウイルス（A 亜型）が検出されました。

国立感染症研究所の感染症発生動向調査 週報によると、RS ウイルス感染症の週別発生状況は図4のとおりで、過去10年間の同時期と比較すると最も多くなっています。

RSV Infection cases reported weekly [報告数]

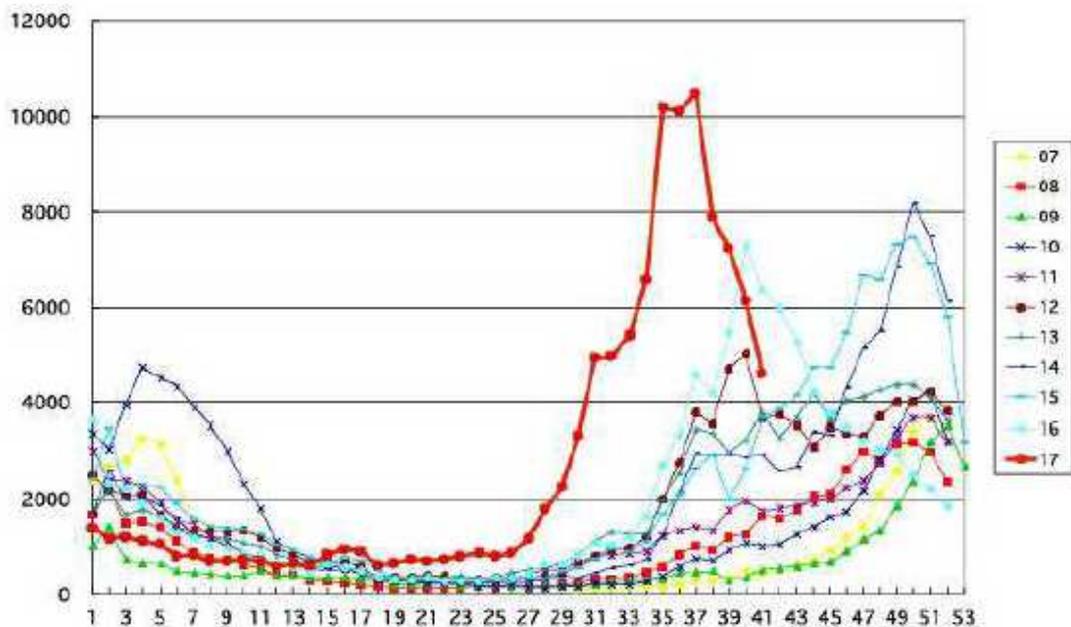


図4 RS ウイルスの週別検出報告数

4 ヘルパンギーナ

臨床診断名がヘルパンギーナの検体2件（検体採取9月下旬・番号170237、検体採取9月下旬・番号170238）について検査を実施しましたが、エンテロウイルスは検出されませんでした。

5 インフルエンザ様疾患について

臨床診断名が、「インフルエンザ様疾患・感染性胃腸炎」の検体1件（検体採取9月中旬・番号170240）について検査を実施しましたが、インフルエンザは検出されませんでした。

6 A群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名が「A群溶血性レンサ球菌感染症」の検体1件（検体採取10月上旬・番号170234）について検査を行いました。A群溶血性レンサ球菌は分離されませんでした。

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 29 年 11 月検出分;検体採取平成 29 年 10 月～11 月)

平成 29 年 12 月 12 日

鳥取県衛生環境研究所

1 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体(便)12 件(検体採取 10 月上旬～11 月上旬)について、検査を行いました。検出されたウイルスは、ノロウイルス GⅡが 3 件、サポウイルスが 1 件、A 群ロタウイルスが 1 件でした。(詳細は表 1 のとおり)

表 1 検査状況 (感染性胃腸炎)

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A 群ロタウイルス	アデノウイルス 40/41	アストロウイルス	アイチウイルス
170247	10 月下旬	－	－	－	－	－	－
170245	11 月上旬	－	－	－	－	－	－
170250	11 月上旬	－	－	検出			
170252	10 月下旬	検出(GⅡ)					
170253	10 月下旬	－	－	－	－	－	－
170254	10 月中旬	検出(GⅡ)					
170257	10 月下旬	－	－	－	－	－	－
170258	10 月下旬	－	－	－	－	－	－
170260	10 月上旬	－	検出				
179261	10 月下旬	検出(GⅡ)					
170263	10 月下旬	－	－	－	－	－	－
170264	10 月下旬	－	－	－	－	－	－
検出計		3 件 (GⅡ:3)	1 件	1 件	0 件	0 件	0 件

(－): 未検出

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体(咽頭拭い液)1 件 (検体採取 10 月下旬・番号 170255) については、アデノウイルス及びエンテロウイルスの検査を実施しましたが、いずれも検出されませんでした。

2 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体 3 件 (検体採取 10 月中旬・11 月下旬) について検査

を行ったところ、アデノウイルスが1件検出され、残り2件からは検出されませんでした。検出されたアデノウイルスの型は64型でした。

全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（12月1日作成）によると、2015年から本年では、54型が最も多く、64型はあまり報告されていません。（図1）

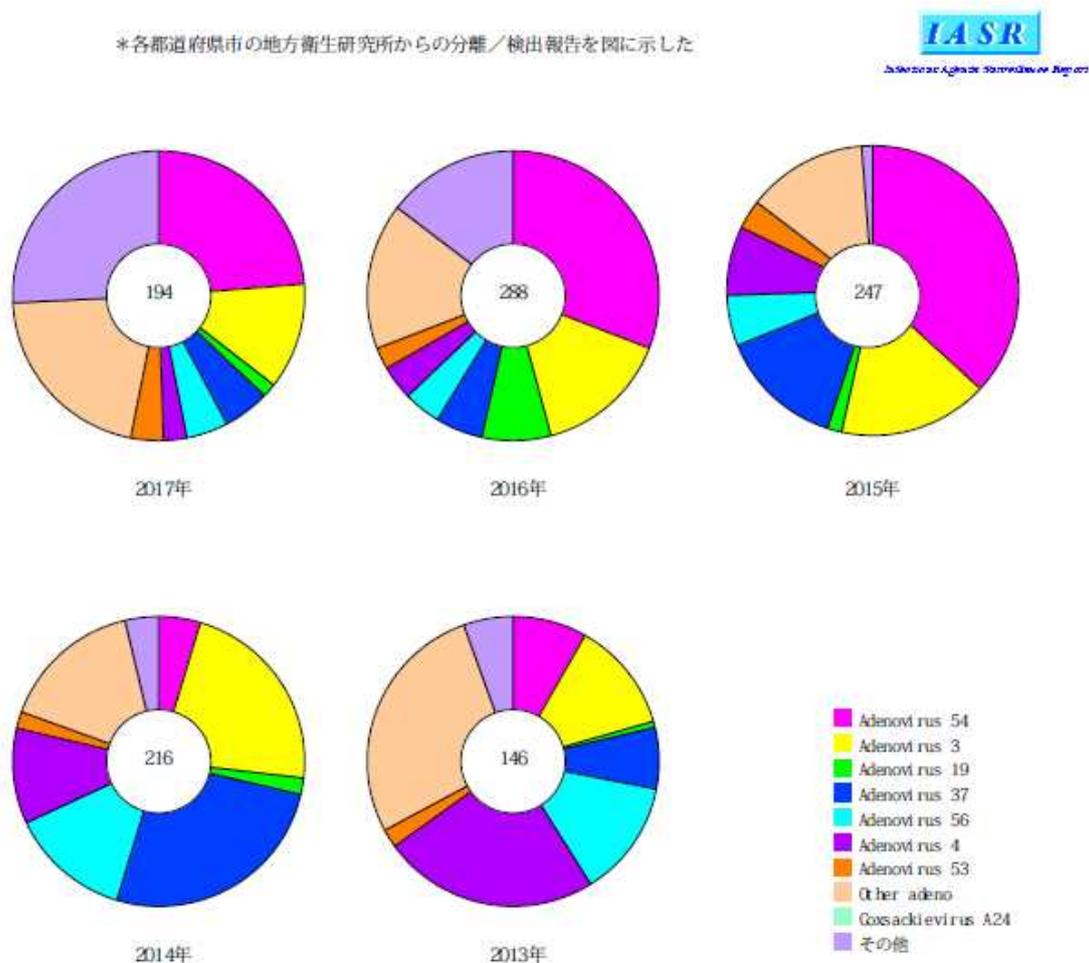


図1 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2013年～2017年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年は12月1日までに報告された数）

3 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の検体1件（検体採取10月中旬・番号170266）について検査を行ったところ、アデノウイルス2型が検出されました。

全国の咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（12月1日作成）によると、2型は、2013年から2016年で2位、本年では1位の報告数となっています。（図2）

*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

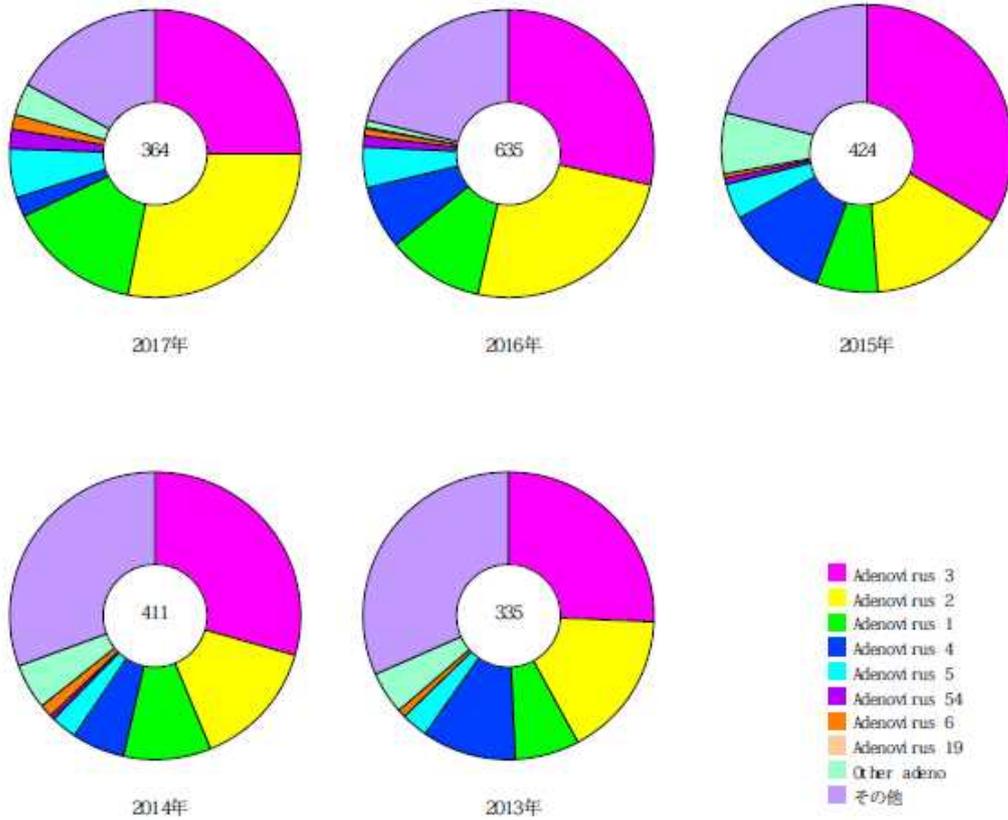


図2 咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルス（2013年～2017年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年12月1日までに報告された数）

4 ヘルパンギーナ

臨床診断名がヘルパンギーナの検体1件（検体採取11月上旬・番号170256）について検査を実施したところ、コクサッキーウイルスA10が検出されました。

全国のヘルパンギーナ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（12月1日作成）によると、2013年、2015年及び本年でコクサッキーウイルスA6が多く報告されており、コクサッキーウイルスA10は2015年及び本年で多い報告数となっています。（図3）

*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離／検出報告を図に示した



図3 ヘルパンギーナ患者から分離・検出されたウイルス（2013年～2017年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年は12月1日までに報告された数）

5 手足口病

臨床診断名が手足口病の検体2件（検体採取10月下旬・番号170259、検体採取10月上旬・番号170262）について検査を実施したところ、コクサッキーウイルスA10（番号170259）及びエンテロウイルスA71（番号170262）が検出されました。

全国の手足口病患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（12月1日作成）によると、2014年を除く最近5年間でコクサッキーウイルスA6が最も多く報告されており、エンテロウイルスA71は2013年、2014年及び本年で2番目に多い報告数、コクサッキーウイルスA10は本年で4番目に多い報告数となっています。（図4）

* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離／検出報告を図に示した



図4 手足口病患者から分離・検出されたウイルス（2013年～2017年）

* 円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年は12月1日までに報告された数）

6 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎（疑いを含む）である検体2件（検体採取10月上旬、下旬）について、ムンプスウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルスの検査を行いました。その結果、1件（番号170246）からエコーウイルス6型のみが検出されました。他の1件についてはこれらのウイルスは検出されませんでした。

全国が無菌性髄膜炎患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（12月1日作成）によると、エコーウイルス6型は、昨年で2位、本年では1位の報告数となっています(表2)。

表2 無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス (2017・2016年)

2017			2016		
1	Echovirus 6	37 11.3%	1	Coxsackievirus B5	141 21.5%
2	Echovirus 9	19 5.8%	2	Echovirus 6	89 13.6%
3	Enterovirus 71	17 5.2%	3	Coxsackievirus B3	31 4.7%
4	Coxsackievirus B2	14 4.3%	4	Echovirus 30	23 3.5%
5	Echovirus 3	9 2.7%	5	Echovirus 9	19 2.9%
6	Coxsackievirus A6	8 2.4%	6	Echovirus 18	18 2.7%
7	Coxsackievirus A9	7 2.1%	7	Coxsackievirus B2	15 2.3%
8	Coxsackievirus B4	4 1.2%	8	Coxsackievirus B1	11 1.7%
9	Echovirus 7	3 0.9%	9	Echovirus 3	8 1.2%
10	Other enterovirus	20 6.1%	10	Other enterovirus	38 5.8%
11	Mumps virus	39 11.9%	11	Mumps virus	85 13.0%
12	Other virus	151 46.0%	12	Other virus	178 27.1%
Total 328 100.0%			Total 656 100.0%		

7 RSウイルス感染症

臨床診断名がRSウイルス感染症の検体1件(検体採取10月中旬・番号170265)について検査を実施したところ、RSウイルスA亜型が検出されました。

国立感染症研究所の感染症発生動向調査 週報(第46週)によると、RSウイルス感染症の週別発生状況は図5のとおりで、報告数は3週連続で減少しました。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約68%を占めています。

RSウイルス感染症 ※定ポイント報告数ではなく、報告数を示しています。

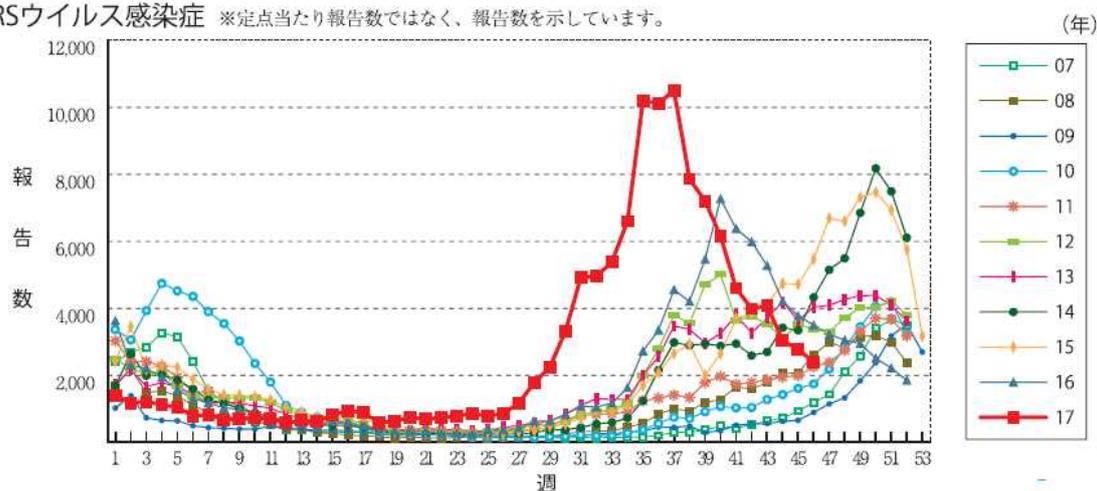


図5 RSウイルスの週別検出報告数

8 A群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名がA群溶血性レンサ球菌感染症の検体2件(検体採取10月中旬、下旬)について検査を行いました。その結果、1件(番号170267)からA群溶血性レンサ球菌が分離され、残り1件からは分離されませんでした。分離された菌について、T型別を行いました。が、型別不能でした。

全国のA群溶血性レンサ球菌感染症患者から分離された同菌については、国立感染症研究所の病原微生物検出情報(12月1日作成)によると、T型別不能なもの割合は10%前

後となっています。(図6)

*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

IASR

Infectious Agents Surveillance Report

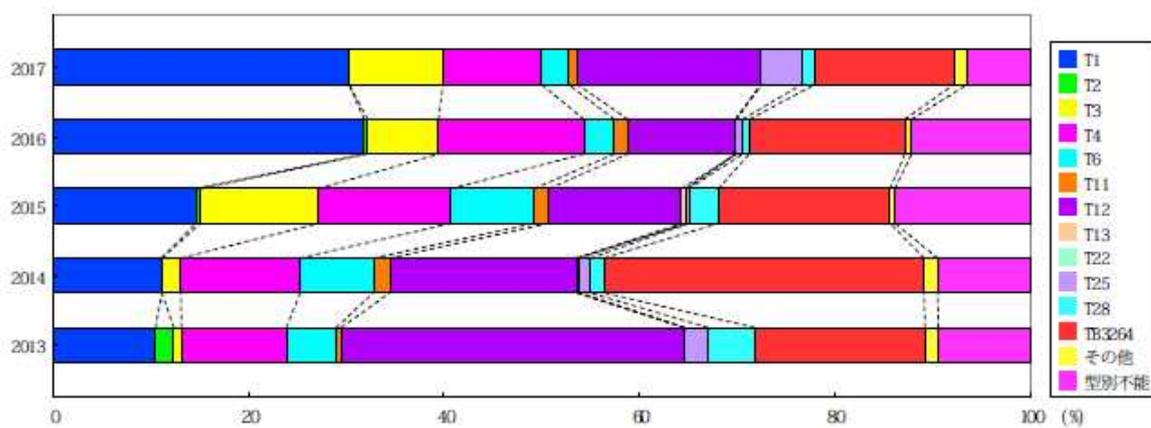


図6 A 群溶血性レンサ球菌 T 型別割合の推移 (2013 年~2017 年)

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 29 年 12 月検出分;検体採取平成 29 年 11 月～12 月)

平成 30 年 1 月 11 日

鳥取県衛生環境研究所

1 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザの検体 7 件 (検体採取 11 月下旬～12 月中旬)について、検査を行ったところ、インフルエンザ A 型が 5 件、インフルエンザ B 型が 2 件検出されました。今シーズンは、昨シーズンより早く、B 型が 12 月に検出されています。(昨シーズンは 4 月以降に検出) なお、A 型が検出された 5 件のうち、3 件は AH3 型、2 件は A2009 型でした。また、B 型が検出された 2 件については、1 件はビクトリア系統、1 件は山形系統でした。(詳細は表 1 のとおり)

表 1 今シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

注) 病原体定点等からの「インフルエンザ、インフルエンザ様疾患」診断検体からの検査結果(1/1)								
検体採取時期		検体採取場所	検出数	A 型別、B 系統別				備考
年	月日			A2009 型	AH3 型	Bvictoria	B山形	
2017	11月30日	西部	1	0	1	0	0	
	11月30日	中部	1	0	1	0	0	
	12月4日	西部	1	1	0	0	0	
	12月11日	中部	1	1	0	0	0	
	12月11日	西部	1	0	1	0	0	
	12月18日	西部	1	0	0	1	0	
病原体定点PCR検査合計 (2017/11/30 - 現在)			7	2	3	1	1	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報 (12 月 27 日作成) によると、今シーズンは、46 週以降 A2009 型が最も多く、次いで B 山形系統が報告されています。(図 1)

各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

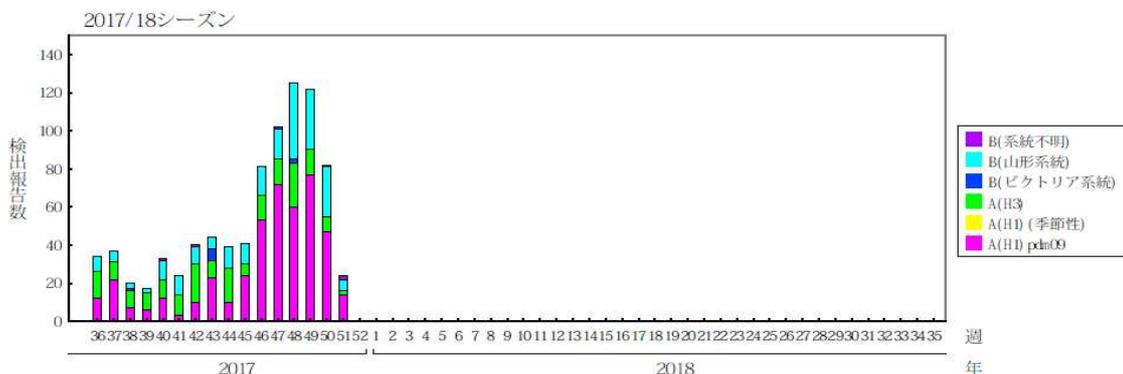


図 1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 6 件（検体採取 11 月上旬～下旬）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、ノロウイルス GⅡが 4 件、サポウイルスが 1 件でした。（詳細は表 2 のとおり）

表 2 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取 時期	ノロ ウイルス	サポ ウイルス	A 群ロタ ウイルス	アデノ ウイルス 40/41	アストロ ウイルス	アイチ ウイルス
170274	11 月下旬	－	検出				
170275	11 月下旬	検出(GⅡ)					
170276	11 月中旬	検出(GⅡ)					
170277	11 月上旬	検出(GⅡ)					
170278	11 月中旬	検出(GⅡ)					
170279	11 月上旬	－	－	－	－	－	－
検出計		4 件 (GⅡ:4)	1 件	0 件	0 件	0 件	0 件

(－): 未検出

3 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎（疑いを含む）である検体 5 件（検体採取 11 月上旬～下旬）について、ムンプスウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルスの検査を行いました。その結果、1 件（番号 170284）からムンプスウイルス G 型のみが検出されました。他の 4 件についてはこれらのウイルスは検出されませんでした。（詳細は表 3 のとおり）

表 3 検査状況（無菌性髄膜炎）

検体番号	検体採取 時期	ムンプス ウイルス	アデノ ウイルス	エンテロ ウイルス	ヘルペス ウイルス
170280	11 月上旬	－	－	－	－
170281	11 月中旬	－	－	－	－
170282	11 月上旬	－	－	－	－
170283	11 月下旬	－	－	－	－
170284	11 月下旬	検出(G 型)	－	－	－
検出計		1 件 (G 型:1)	0 件	0 件	0 件

(－): 未検出

全国の無菌性髄膜炎患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所

の病原微生物検出情報（12月27日作成）によると、ムンプスウイルスは、2017年で1位、2016年で3位の報告数となっています(表4)。

表4 無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス（2017・2016年）

2017			2016		
1	Echovirus 6	39 10.7%	1	Coxsackievirus B5	141 21.5%
2	Coxsackievirus B2	20 5.5%	2	Echovirus 6	89 13.6%
3	Echovirus 9	19 5.2%	3	Coxsackievirus B3	31 4.7%
4	Enterovirus 71	19 5.2%	4	Echovirus 30	23 3.5%
5	Echovirus 3	12 3.3%	5	Echovirus 9	19 2.9%
6	Coxsackievirus A6	9 2.5%	6	Echovirus 18	18 2.7%
7	Coxsackievirus A9	8 2.2%	7	Coxsackievirus B2	15 2.3%
8	Echovirus 7	6 1.6%	8	Coxsackievirus B1	11 1.7%
9	Coxsackievirus B4	4 1.1%	9	Echovirus 3	8 1.2%
10	Other enterovirus	24 6.6%	10	Other enterovirus	38 5.8%
11	Mumps virus	41 11.2%	11	Mumps virus	85 13.0%
12	Other virus	165 45.1%	12	Other virus	178 27.1%
Total		366 100.0%	Total		656 100.0%

4 RS ウイルス感染症

臨床診断名がRSウイルス感染症の検体1件（検体採取11月上旬・番号170271）について検査を実施したところ、RSウイルスA亜型が検出されました。

5 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体1件（検体採取11月下旬・番号170268）について検査を行ったところ、アデノウイルスが1件検出されました。検出されたアデノウイルスの型はD種でした。

6 A群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名がA群溶血性レンサ球菌感染症の検体1件（検体採取11月下旬・番号170273）について検査を行いましたところ、A群溶血性レンサ球菌が分離されました。分離された菌について、T型別を行いました。型別不能でした。

全国のA群溶血性レンサ球菌感染症患者から分離された同菌については、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（12月27日作成）によると、T型別不能なもの割合は10%前後となっています。（図2）

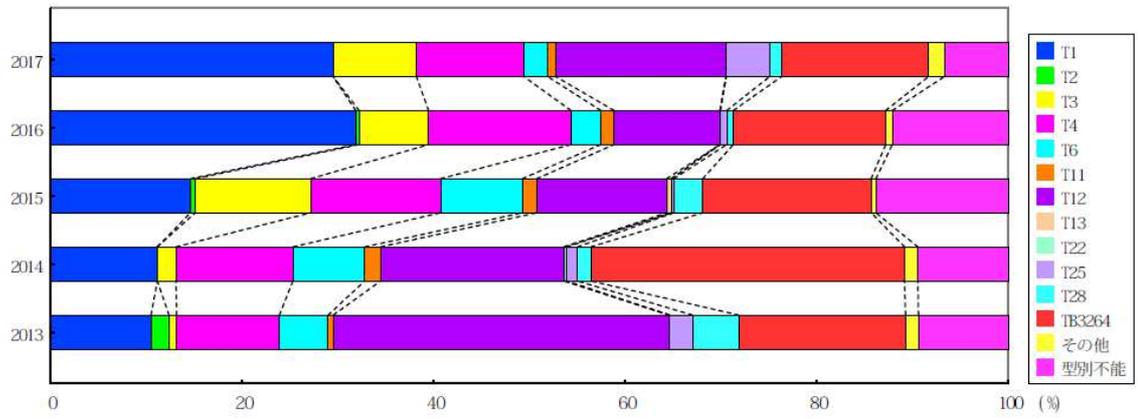


図2 A群溶血性レンサ球菌 T 型別割合の推移 (2013 年～2017 年)